

新年度にあたって

新年度が幕を開けました。令和4年度におきましても、本市教育の充実と魅力の向上に向けて、教育委員の皆さま、教育委員会事務局職員とともにチーム市教委で力を尽くしてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和4年度、本市教育においては2つの大きな変化があります。「公立幼稚園の再編」と「全小・中学校におけるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入」です。

公立幼稚園については、3月末をもって黒崎幼稚園・大津西幼稚園・里浦幼稚園・堀江南幼稚園が閉園、成稔幼稚園が公私連携幼保連携型認定こども園に移行したことにより、今年度より7園に再編され新たな形で再スタートを切ることとなります。本市では、この公立幼稚園の再編を契機として、市内すべての就学前教育・保育施設（幼稚園、保育所〔園〕、認定こども園）と小学校とのさらなる連携体制の整備・充実を進め、就学前教育・保育の質の向上と小学校への円滑な接続に取り組んでいきます。

コミュニティ・スクールとは、学校に保護者や地域住民等が参画する学校運営協議会を設置し、学校運営に必要な支援に関する協議を行い、地域と連携・協働しながら学校運営に取り組む学校のことです。本市では、今年度より市内すべての小・中学校に学校運営協議会を設置し、学校と地域が学校教育目標や防災教育をはじめ教育上の課題を共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」の推進をより一層進めていきます。

また、昨年度、市内小・中学校で一人1台タブレット端末環境が実現し、ICTを活用する教育の入り口に立ちました。重要なのは、配られたタブレット端末が数年後にどう活用されているかです。本市においては、ICTを活用した教育を加速・充実させるため、小・中学校の教職員と鳴門教育大学の教員が連携・協働し、昨年10月「ICTコラボチーム」を立ち上げ、ICT利活用事例の実践研究を進めており、その成果を市内小・中学校において活用できるようにしていきます。

なお、タブレット端末の各家庭への持ち帰りは、昨年度については非常時（新型コロナウイルス感染症による臨時休業等）に限定していましたが、今年度からは平時においても持ち帰りを実施する予定です。

ところで、学校教育（義務教育）の最上位目標は、子どもたち一人ひとりに「社会において自立的に生きる基礎を培う」ことです。ですから学校教育の第一義は学力向上であり、学校は子どもたちの可能性を広げる場とならなければなりません。ここでいう学力とは、点数で測ることができる狭い意味での学力だけではありません。2030年の社会と子どもたちの未来を見据えて改訂された現行の学習指導要領では、学力の内実（育成をめざす資質・能力）を3つ（①知識・技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等）に整理しています。

自立とは社会において自分の力で生きていくことですが、それは一人で生きていくことを意味しているのではないでしょう。自立とは多くの他者に適切に依存できることだという人もいます。社会は集団生活の場であり、自立にはコミュニケーション力など、人と関わり合う力が大切になってきます。それはまさに先の学力の内実（③学びに向かう力、人間性等）にあたるものでしょう。

子どもたちの学力向上、子どもたちに確かな学力を身につけさせることは、本市教育の喫緊の課題です。学力向上に向けて、教育委員会として学校現場をしっかりと下支えし、学習意欲の向上につながるキャリア教育の充実を図りながら、子どもたち一人ひとりの学力向上に努めていきます。

終わりになりますが、学校教育の成否は教職員に負うところが大きいことは言うまでもありません。教職員が元気でやる気に満ちていれば教育活動は充実し、子どもたちにもよい影響を与えます。教育委員会では、日ごろから教育現場のニーズを把握し、学校（園）現場とともに「子どもも 教師も育つ学校（園）」づくりに取り組んでまいります。

保護者・市民の皆さまの本市教育へのご理解とご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年4月

鳴門市教育委員会教育長 三浦克彦